

房総 だより

(農)房総食料センター

千葉県山武郡横芝光町上原 368-1

<http://www.boso.or.jp/>

☆産地情報をお知らせします。

発行：2020年6月26日

野菜よもやま話

トマトの収穫予測の難しさ

梅雨らしい天気が続いています。露地栽培のズッキーニは雨に濡れ、受粉作業が進まず、まったく収穫量が読めない状況です。この時期のとうもろこし、枝豆などの、なりもの野菜は収穫量が天候に大きく左右されます。

トマトがいつ、何キロ収穫できるのか？これこそ生産者にとって最大にして、永遠の難問です。トマトは毎日、毎日の温度の足し算で赤くなるので、曇りや雨がが続くと気温が上がらず、赤くなるにも時間がかかります。山武市の土屋けい子さんに聞くと、「今年は初めて、摘果をしてみたの。一段目のトマトはとっても大きくなってしまって、出荷できないことが続いたので、樹の栄養の配分を考えてやってみることにした。

一段目に6～8個ついたトマトを、初期に、粒を揃えるため4～5個に間引いたけど、すごく勇気がいったの。切っちゃって、うまくいかなかったらどうしよう、って。でも、思い切って良かった。今はいいサイズの実が揃ってて無駄が無くて、すごくいいの！」と嬉しさいっぱい話してくれました。

「でも色づきは本当にわかんない。順調に赤くなっていたかと思うと、パタッと色づかなくなることもあって、本当に困るの。」といいます。何年もトマト作りをしている土屋さんのお宅でもそうなんです。その年の陽気も影響するので、なにが正解かわからない、とも。トマトのハウスを見に行きましたが、観察と長年の経験とデータから出荷予想をする生産者の能力は本当にすごいと感心するばかりです。(B)

トマトハウスにて土屋義久さん →

トマトは一房に平均4～5個つけ、その房を地面に近いところから1段、2段と数えます。

収穫は8段くらいで止めるそうです。

